

令和2年、施設長挨拶・・・コロナの嵐を乗り越えよう  
～あせらず、たゆまず～

石川 清司

ご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルスの嵐のまっただ中で新年度を迎え、衰えを見せない嵐に緊張感が増しています。この騒動でもって多くの教訓を得ることになりました。一つの現象でも、社会は景気の波に左右され、大きく揺れ動くことが分かりました。

かつて、「由布院物語」の著者の講演を間近に聴く機会がありました。近接する別府の街と対比しながらの街づくりの話でした。同じような、温泉を売りにした街でも、大型の観光バスでもってお客さんを運び、宴会の場が設定された別府の温泉街と、散策する温泉の街・由布院との違いについての説明でした。自然を生かし、景気の波に左右されない街作りは、地道な道程ですが、持続する、夢のある街になります。

高齢化社会を迎え、私どもの仕事は、まさに地道な世界です。しかし、介護を必要とするお年寄りの方々の、「人生の物語」を豊かにまとめていくお手伝いをする貴重な仕事でもあります。

100歳のお婆さんから頂いた言葉です。生涯、沖縄の目の不自由な方々のために尽くしたお婆さんでした。98歳まで点字のボランティアを続けていました。

「生きる意欲は、自らの内部からひとりで生まれるのではなく、それを期待して待っている人の存在によって引き出されるのではないか」・・・とのことでした。

信頼関係を基礎に、あせらず、そしてたゆまずの姿勢でもって、お年寄りの方々の「人生の物語」の中に、自らの生き方を学び、地に足をつけて歩いていきましょう。コロナの嵐の中においても、冷静に、しかも挑戦する心をわすれずに。

2020年12月